

新型コロナウイルス対応ガイドライン

(第37回山鹿選手権大会in福岡)

【はじめに】

令和2年6月1日付、JABA新型コロナウイルス対応ガイドライン(オープン戦用)の通知及び(公財)日本少年野球連盟の各種大会開催(練習試合)運営に関するガイドラインを参考に作成しています。

【移動について】

都道府県をまたぐ移動制限は設けません。なお、移動に際しては、第三者との濃厚接触を回避するため、公共交通機関を極力使わず、やむを得ず利用する場合は混み合う時間帯を可能な限り避けるように注意してください。

【大会運営方針について】

- (1) 運営(球場)責任者、及び運営役員は3名
- (2) 放送2名、記録2名、グラウンド整備等運営補助者5名程度
- (3) 室内本部は必要最低限の者とし、屋外(スタンド)とする。
- (4) 試合間隔は試合時間含め3時間を取り密にならないよう運営する。
- (5) 試合ベンチはグラウンド内にもスペースを広げ、防球ネット等で安全対策を行い密度が高くないように設営する。
- (6) チーム到着時、帰途時の挨拶は「無し」としメンバー表等の提出のみとする。
- (7) 試合前審査は審査証確認及び道具審査のみとし代表のみが立ち会う。また、試合前のメンバー表交換の集合は球場責任者、審判、監督、主将で行う。
- (8) 接待は「無し」とし飲料(個別ペットボトル)、弁当等は1ヶ所に準備し各自で取りに行くこととする。
- (9) 本部長、ベンチ、トイレに消毒液、または手洗い用ハンドソープを設置し、試合終了後、ベンチを消毒する。
- (10) 試合会場入りは1時間前とし、試合終了後は速やかに会場より退出とする。
- (11) 大会主催者は検温計、ハンドソープ、消毒液、ダスタークロス等の準備をする。

【参加チームについて】

- (1) 会場入り可能チーム構成、人数はベンチ入りの代表、監督、コーチ、マネージャー、選手20(25)名以内及び保護者の応援はマスク着用し観客席にて2メートル以上の間隔を取り、声を出さず見学のみとする。
- (2) チームの飲料等は個人水筒、専用ペットボトルで行いチームのジャグ等禁止とする。また、チーム役員、監督等の接待も禁止とする。
- (3) 昼食を取る場合対面にならないよう2メートル以上の間隔を取り会話せず最低限の時間で済ませる。また他チームとの必要外の接触は避ける。
- (4) 大会会場へは1時間前以上早く入らない。また試合終了後は速やかに帰途に着くこと。
- (5) 選手移動については全ての車両に於いてこまめな換気を行い密閉、密集、密接にならないよう注意する。
- (6) 宿泊に於いては一人一部屋、室内でのミーティングをしない。
- (7) 食事の時は対面、密集にならないよう会話せず済ませる。
- (8) 大会(試合)に参加するにあたり、チームの基本的な対策及びハンドソープ、消毒液など備品は自チームで行い、選手、スタッフ、保護者の管理はチームで責任をもって行うこととする。
- (9) チームからの参加及び活動の強制は禁止致します。

【試合について】

- (1) 打席、守備につくとき以外はベンチ内に於いてはマスク着用とする。
- (2) アルコール消毒液をダッグアウト、ロッカー、ブルベン等に常時配置することが望ましい。
- (3) 試合前後のホームベース上での整列(挨拶)は行わない。
- (4) 素手でのハイタッチ、握手及びメガホンの使用等を控える。
- (5) 試合中、唾を吐く行為を禁止する。
- (6) 試合中、手をなめる行為を行わない。

- (7) ダッグアウトにおいては、できるだけ選手同士の間隔をとり、可能な限り接触を避け、声出しは控える。
- (8) 試合前やインニング間の円陣やその際の声出しは控える。

【観客について】

- 制限は設けずチーム判断とします。
ただし、各市町によっては、観客を制限しているケースがありますので、各市町のロードマップ等で確認の上対応願います。なお、入場する際は、以下の点に注意する。
- (1) 検温を実施し、37.5° C 以上あった場合は、入場をお断りする。
 - (2) アルコール消毒を実施する(消毒液の手配)。
 - (3) マスクを着用し、観客同士の間隔を開けるよう注意を促す。

【審判について】

- (1) 球審については、飛沫感染防止の観点から、当面マスク着用とする。ただし、インニング交代の合間に、こまめに水分を補給し、試合中に球審と塁審を交代するなど、熱中症の予防には、十分に注意する。
今後、暑さが増してくると熱中症のリスクが高まってくるので、熱中症予防の対策を講じる。
- (2) 塁審については、野手と一定の距離を保てることからマスク着用は必須としない。

【チームを除く試合関係者の対応について】

- (1) 検温チェックを行い、37.5° C 以上あった場合は入場を認めない。
- (2) 球場に入る際は、アルコール消毒を実施する。
- (3) マスク着用とする。
- (4) 本部長、記録室、審判控室、放送室等がある場合は、定期的に換気(窓が無い場合は入り口を開放)を実施する。また、座席の間隔は一定の距離を保つ。

【報道関係者の対応について】

- (1) 検温チェックを行い、37.5° C 以上あった場合は入場を認めない。
- (2) 球場に入る際は、アルコール消毒を実施する。
- (3) マスク着用とする。
- (4) 社名・氏名を記録として残しておく。
- (5) 取材に関しては、選手達との一定の距離を保ち至近距離での取材は避ける。

【選手等の健康管理について】

- (1) 試合当日、選手等の検温及び体調等のチェックを行い37.5° C 以上の発熱や体調不良の選手等については、チームに同行させない。
- (2) 球場に入る際は、アルコール消毒を実施する。
- (3) 球場への移動を含め、球場内のグラウンド、ダッグアウトを除くエリアにおいてはマスクの着用を心掛ける。また、相手チームや審判等の関係者との接触を可能な限り避ける。
- (4) 試合終了後(帰宅もしくは帰郷)、37.5° C 以上の発熱や体調を崩した場合は、適切な処置を行うと同時に必要に応じて、支部に報告する。
- (5) 練習不足による選手の怪我や熱中症を未然に防ぐよう十分に注意を払う。

【最後に】

本ガイドラインに記載のない対応については、各チームに判断していただきますが、判断が難しい場合は、支部にご照会ください。以上、大会のガイドラインであります。感染のリスクがゼロではありません。各チーム参加選手、保護者にはよく説明を行い同意、承諾の中で参加、活動のお願いいたします。なお、大会開催中に於いても感染状況が悪化及び行政の指導が出た場合大会及び試合を打ち切る場合があります。

以上は、令和2年7月15日現在の「新型コロナウイルス対応ガイドライン」であり、新型コロナウイルスの状況変化に伴い、改正される場合があります。